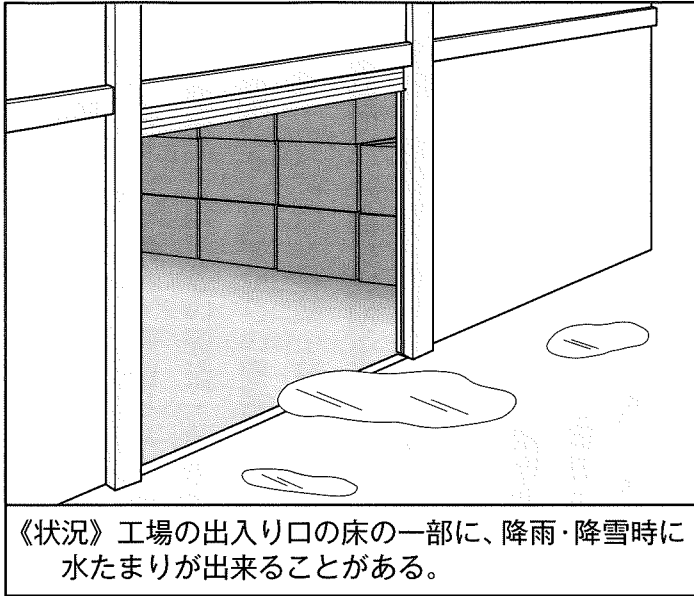


リスクアセスメント演習

リスクを評価して対策を考えよう

どんな危険性又は有害性がありますか？



リスクアセスメントは、職場に存在する「危険性または有害性」(リスク)を把握して、その「程度」(リスクレベル)を明らかにし、この程度に応じて、リスクを除去・低減するために「必要な事項」(対策等)を決定するための手段です。

リスク低減措置の実施 (安衛法第28条2に基づき指針)

法令に定められた事項がある場合は必ず実施するとともに、次の優先順位で低減措置等の対策を実施します。

- (1) 危険な作業の廃止・変更。有害性の低い材料等への代替
- (2) 工学的対策 (インターロック、局所排気装置の設置等)
- (3) 管理的対策 (マニュアルの整備、教育・訓練等)
- (4) 個人用保護具の使用

《リスク評価表の例》 リスクの評価の方法は各種ありますが、下記の《例》を参考に実施して下さい。

No.	危険性又は有害性の特定	① 重大性	② 可能性	③ ポイント	④ リスクレベル	改善対策	対策後のリスク評価(予測)						
							① 重大性	② 可能性	③ ポイント	④ 対策後のリスクレベル			
1	工場内に出入りするフォークリフトや作業者が、水たまりで滑って転倒したり、中から出てきた人と衝突する。	6	4	10	IV	① 工場の出入り口上部にひさしを設け、床面は水溜まり等が出来ない構造にする。	1	1	2	I			
						② 出入り口床にスリップ・転倒防止用の敷物等を設置する。	3	2	5	II			
						③ 出入り口に注意標識を設け、朝礼等で注意を促す。	3	4	7	III			

《リスク評価基準の例》

① 災害の重大性

重大性	点数
致命傷	10
重傷	6
軽傷	3
微傷	1

② 災害の可能性

可能性	点数
確実である	6
可能性が高い	4
可能性がある	2
ほとんどない	1

③ リスクポイント	④ リスクレベル	判定と改善対策等
10～16	IV	重大な問題があり、直ちに対策が必要
7～9	III	大きな問題があり、対策が必要
4～6	II	問題があり、見直し改善が必要
2～3	I	許容可能、残留リスクの措置を行う

合計評価値 = ① 重大性 + ② 可能性